

研究課題

国公立大学附属病院感染対策協議会で実施する院内感染サーベイランスに関する研究

研究の目的と意義

国立大学附属病院感染対策協議会は、国立大学病院における、ひいてはわが国の感染対策を発展のために設立されました。2011年からは公立大学附属病院も参加し活動しています。これまでにガイドラインの作成、相互チェックやアウトブレイク時の改善支援活動の実施など、常に我が国の感染制御をリードする活動を継続してきました。名古屋大学はこの全国組織の事務局を勤めています。

本研究では、参加各施設の感染対策チームが日常業務として実施している各種の院内感染対策のためのサーベイランスデータを集計して情報共有することにより、自施設の状態をベンチマークして、それぞれの病院での院内感染対策の推進に資することを目的としています。

研究の方法

情報共有するサーベイランスデータは、中心静脈カテーテル関連血流感染症サーベイランス、カテーテル関連尿路感染症サーベイランス、人工呼吸器関連合併症（Ventilator-Associated Events）サーベイランス、薬剤耐性菌サーベイランス、血液培養検査サーベイランス、抗菌薬使用量サーベイランスです。サーベイランスの定義は、CDCなどの定義に基づいて実施しますが、協議会施設が全て参加可能なように合理的な共通の定義を作成する場合があります。各施設内でサーベイランスを実施する場合は、電子カルテ等より臨床情報や耐性菌検出情報、抗菌薬の使用情報を収集して行いますが、感染対策協議会で共有する場合は、各施設で算出された感染率、耐性菌検出数や検出率、血液培養検査数や複数セット採取率、抗菌薬使用のAUD/DDD(抗菌薬使用密度)値、DOT(抗菌薬治療日数)値などのデータを扱うことになり、患者さんの個人情報とは結びつかない情報となっています。サーベイランスデータを感染対策協議会事務局を通じて集約し、サーベイランス作業部会メンバーにより共有データにまとめられ、それぞれの施設が自施設のデータをベンチマークできるように、参加施設にフィードバックされることとなります。結果を学会等に発表する場合には、新たに発表者の施設で倫理委員会を開き承認を受けることとなります。その場合も個人情報は十分守秘されます。

研究機関

全国国公立大学附属病院の感染制御部、感染対策室、感染症科

連絡先

名古屋大学医学部附属病院 中央感染制御部 八木哲也

〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65 番地 Tel: 052-744-2955 Fax: 052-744-2801